

**Minebea**

# 決算説明会

2012年3月期第1四半期

2011年7月29日  
ミネベア株式会社

## 1Q連結業績ハイライト

東日本大震災によるサプライチェーンの混乱や製品ミックスの悪化、  
人件費高騰、新工場立ち上げによる費用増加などにより大きく減益

| (百万円)              | 2011年3月期 |        | 2012年3月期 | 前年同期比<br>伸び率 | 前四半期比<br>伸び率 |
|--------------------|----------|--------|----------|--------------|--------------|
|                    | 1Q       | 4Q     | 1Q       |              |              |
| 売上高                | 67,891   | 63,944 | 64,802   | -4.5%        | +1.3%        |
| 営業利益               | 6,024    | 4,194  | 2,303    | -61.8%       | -45.1%       |
| 経常利益               | 5,600    | 3,710  | 1,870    | -66.6%       | -49.6%       |
| 四半期純利益             | 3,815    | 1,816  | 668      | -82.5%       | -63.2%       |
| 一株当たり<br>四半期純利益(円) | 9.99     | 4.75   | 1.76     | -82.4%       | -62.9%       |

| 為替レート | 11/3期1Q | 11/3期4Q | 12/3期1Q |
|-------|---------|---------|---------|
| US\$  | 92.81円  | 81.78円  | 82.04円  |
| ユーロ   | 120.53円 | 110.55円 | 118.54円 |
| タイバツ  | 2.86円   | 2.67円   | 2.72円   |
| 人民元   | 13.60円  | 12.39円  | 12.57円  |

2011年7月29日

1

Minebea

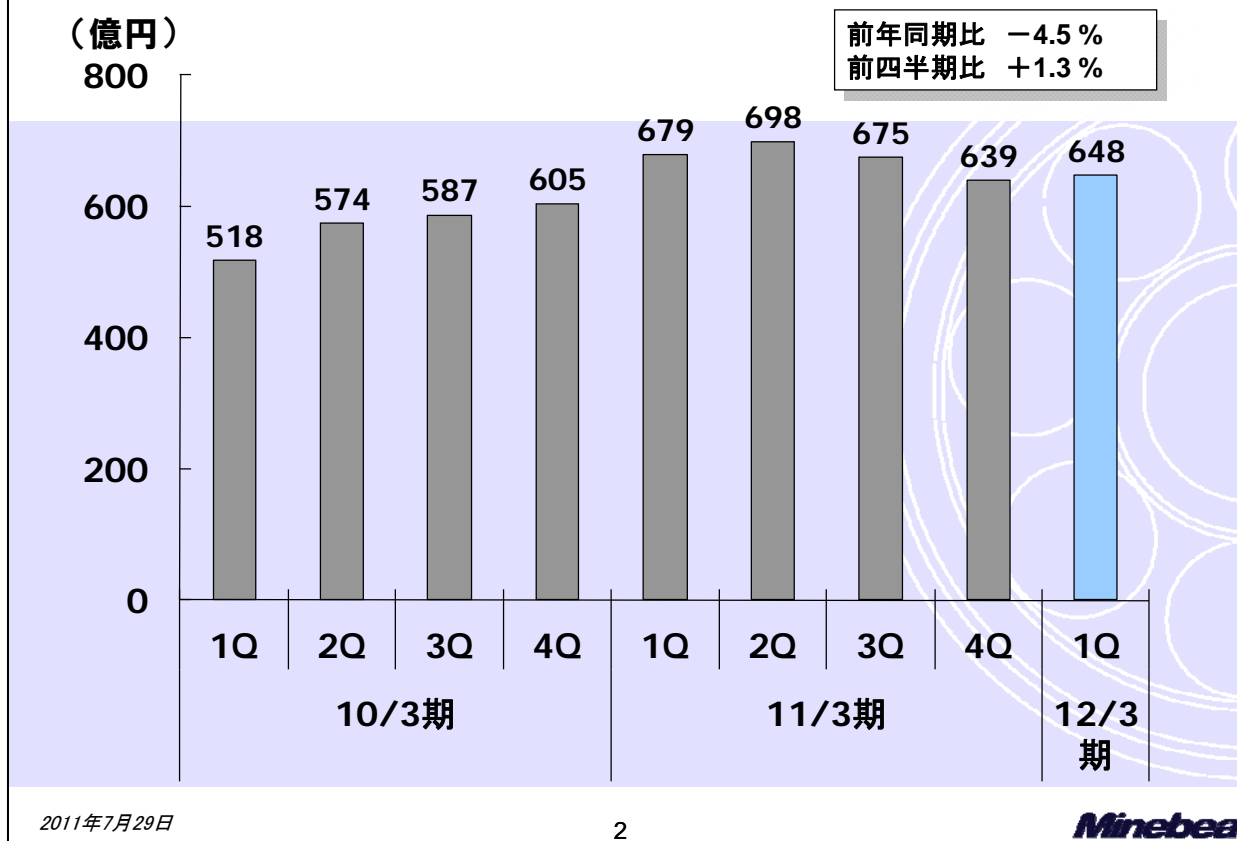
2012年3月期第1四半期の連結業績は、売上高が前四半期と比べ1.3%増の648億200万円、営業利益は45.1%減の23億300万円、四半期純利益は63.2%減の6億6,800万円となりました。

売上高は、東日本大震災の影響があったものの、ボールベアリング、ロッドエンド・ファスナー、ピボットアセンブリーの販売が総じて堅調に推移したことにより、1.3%の増加となりました。

利益面では、震災により自動車・OA機器向け販売が影響を受け、製品ミックスが悪化しました。また、LEDバックライトの購入部材メーカーも震災影響を受け、部材供給が滞りました。さらに、人件費の高騰、4月から稼働を開始した蘇州新工場、カンボジア仮工場の立ち上げ費用の増加が利益を押し下げました。

# 売上高

四半期推移



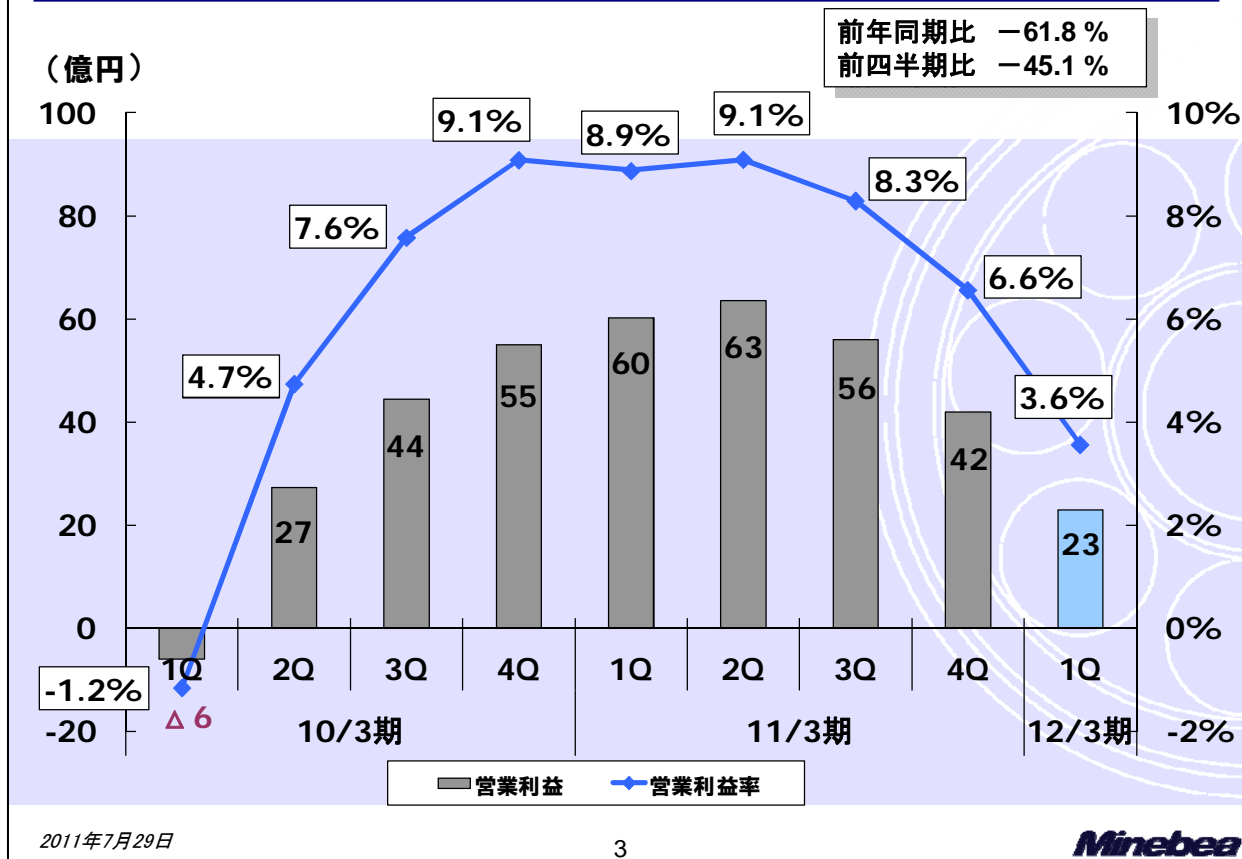
世界経済の回復は現在も継続していますが、第1四半期の売上高はUS\$安のマイナス影響により、前年同期比で4.5%減となりました。

為替の影響は、前年同期比で約47億円のマイナス影響、前四半期比では約8億円のプラス影響となりました。

第2四半期以降は、震災からの回復が前倒しで進んでいることなどにより、売上がさらに増加するものと見込んでいます。

# 営業利益

四半期推移



第1四半期の営業利益は、震災の影響や為替によるマイナス影響、製品ミックスの悪化、人件費の高騰、新工場の立ち上げ費用増加などにより、前年同期比で61.8%減の23億円と大きな減益となりました。営業利益率も5.3ポイント低下し、3.6%となりました。

営業利益への為替影響は、前年同期比で約3億円のマイナス影響、前四半期比では、ほぼ影響がありませんでした。

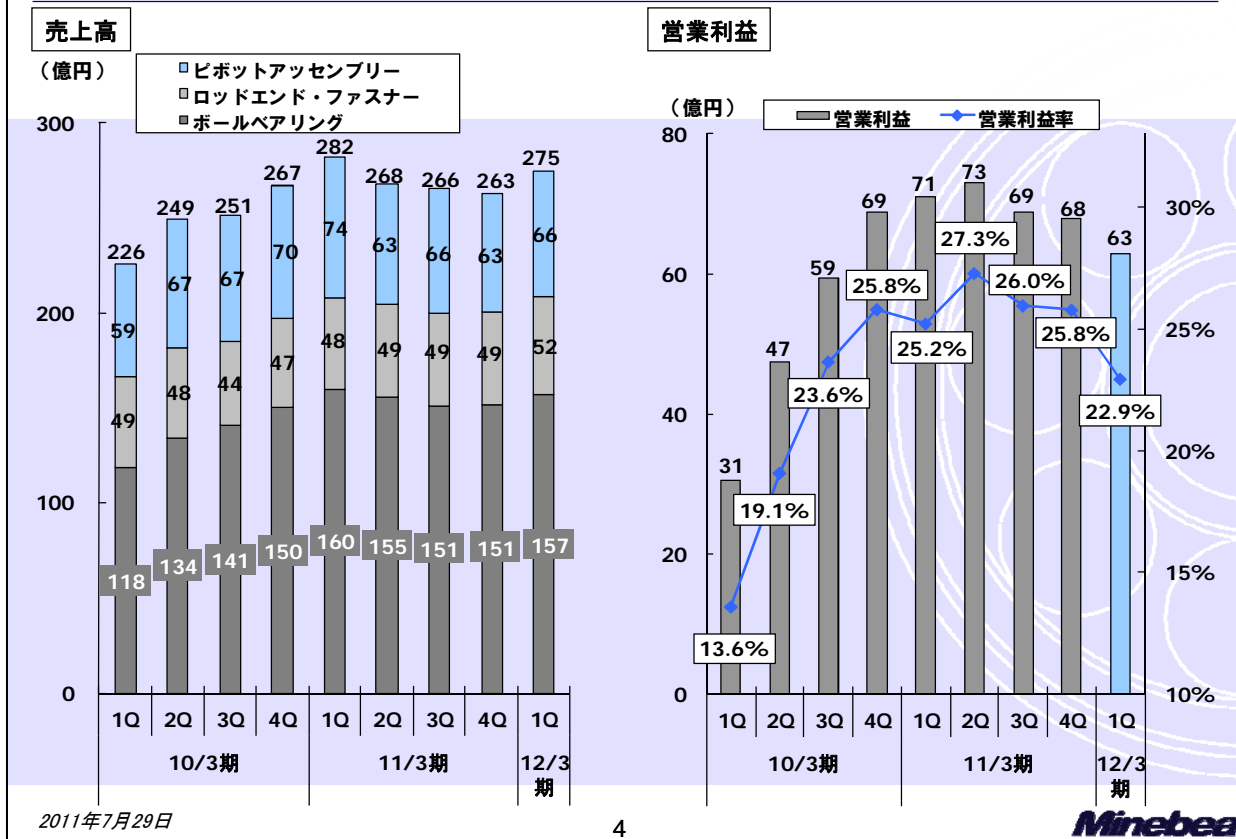
第2四半期以降は、売上の回復とともに営業利益も大きく回復するものと見込んでいます。

# 機械加工品事業

セグメント別

※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

四半期推移



2011年7月29日

4

Minebea

機械加工品事業セグメントの第1四半期の売上高は、前四半期比4.4%増の275億円となり、営業利益は7.1%減の63億円となりました。営業利益率は2.9ポイント低下し22.9%となりました。

製品別では、ボールベアリングの売上高は、国内自動車生産・OA機器向けで震災の影響があったものの、世界需要は好調に推移したため、前四半期比4.0%増の157億円となりました。利益面では、震災影響による一時的な製品ミックスの悪化、鋼材価格や電力使用料、人件費の高騰と未実現利益の増加により減益となりました。

市場は順調に拡大すると見込まれますので、タイの新工場も予定通りに秋に稼働を始め、徐々に生産能力を引き上げていきます。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は、航空機需要の盛り上がりに伴う販売の増加により、前四半期比6.1%増の52億円となり、利益も増加しました。

今後の航空機市場は、新型機の登場などで更に拡大していくと考えられ、業績も更なる改善が続くと見込まれます。

ピボットアッセンブリーの売上高は、販売数量の増加により前四半期比で4.8%増の66億円となりました。利益面では、前期に拡大した生産能力の増加コストを吸収出来ずに、減益となりました。

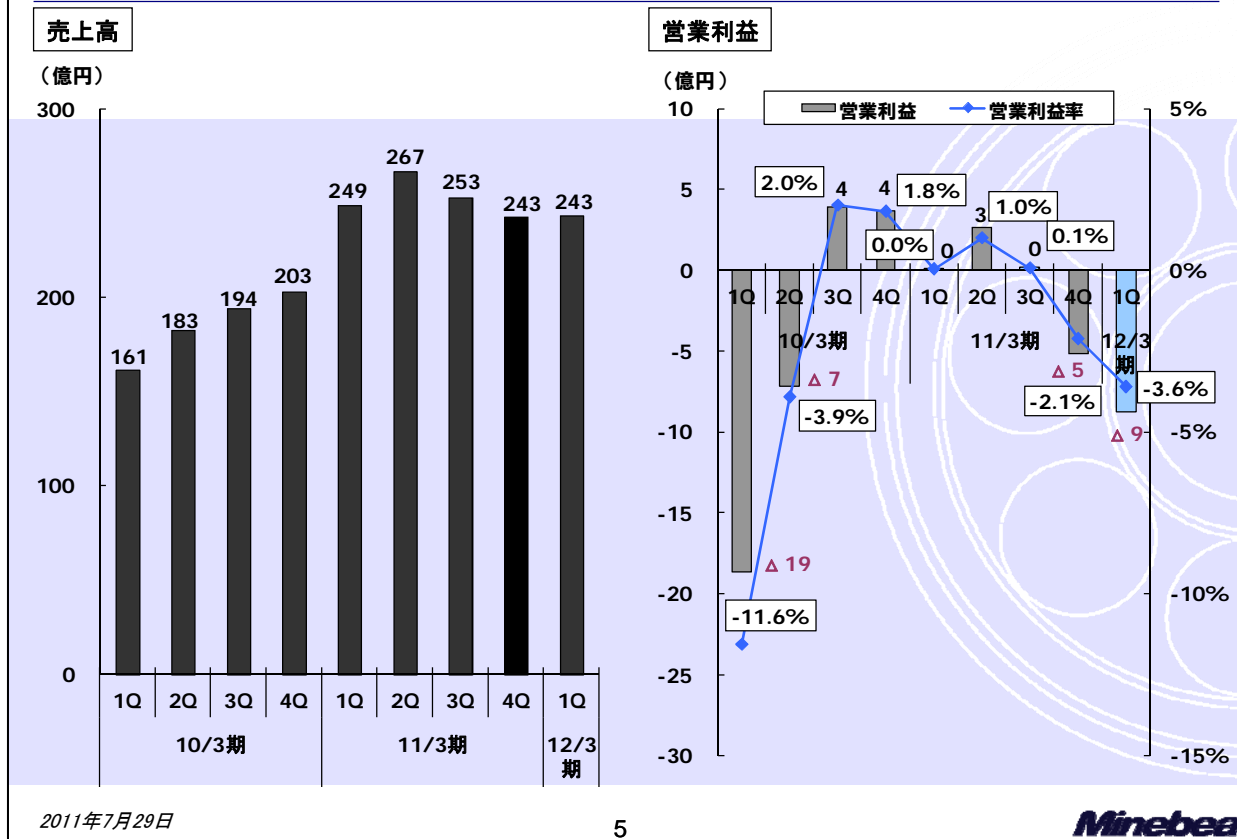
震災の影響もほぼなくなり市場は順調に拡大する見込みですので、販売の拡大に注力していきます。

# 回転機器事業

セグメント別

※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

四半期推移



2011年7月29日

5

Minebea

第1四半期の回転機器事業セグメントは、震災により、自動車・OA機器市場でサプライチェーンの混乱があったものの、一方で季節的に需要期に入り出したため、売上高は前四半期比で横ばいの243億円となりました。

営業損益は、震災の影響による製品ミックスの悪化、人件費の高騰が大きく影響し、さらにカンボジア新工場の立ち上げによる費用増加もあったため、9億円の損失となりました。

営業利益率も1.5ポイント低下しマイナス3.6%となりました。

製品別では、情報モーターが震災影響によりOA機器向けなどの高付加価値品の販売が低迷しました。スピンドルモーターについては、サプライチェーンの混乱により販売面で震災の影響を大きく受けていましたが、販売先の生産回復に伴い月を追う毎に販売数量が回復し、損益面でも同様に改善が進みましたが、3カ月合計では前四半期に比べほぼ横ばいの赤字に留まりました。

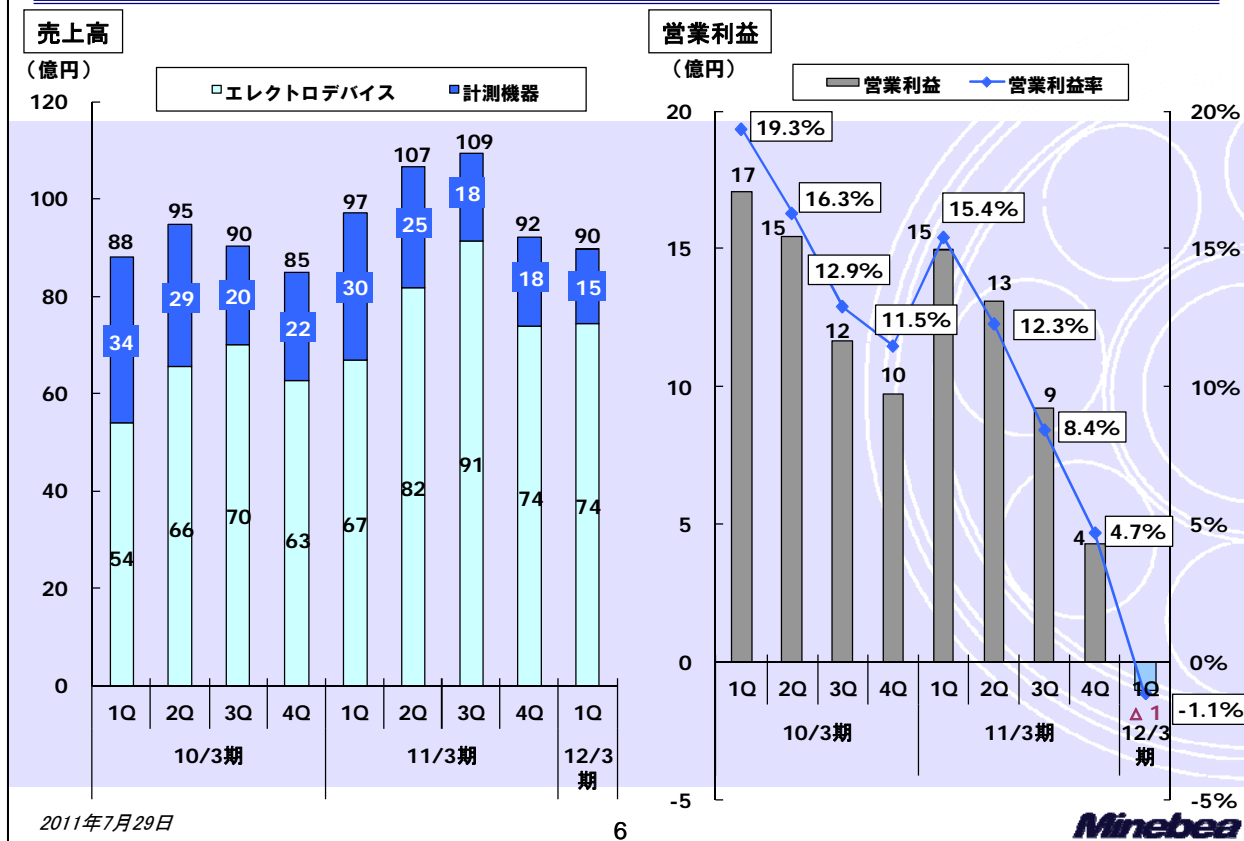
第2四半期以降は、レアアースをはじめとする原材料価格の更なる高騰が予想されますが、今後も販売の回復とコストダウンに努め、さらにカンボジア自社工場の建設などモーター工場の戦略的再編にも注力していきます。また、原材料価格の高騰に対応して値上げを進めています。

# 電子機器事業

セグメント別

※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

四半期推移



2011年7月29日

6

Minebea

第1四半期の電子機器事業セグメントは、売上高は前四半期比で2.7%減の90億円となりました。営業損益も1億円の赤字となり、営業利益率は5.8ポイント低下のマイナス1.1%となりました。

製品別では、エレクトロデバイスの売上高が前四半期比で横ばいの74億円となりましたが、損益は赤字となりました。これは、LEDバックライトにおいて震災により部材の供給が滞ったため、ミネベアの生産も一時的に減産を余儀なくされたこと、急激な増産による一時費用の増加に加え、中国の蘇州新工場の立ち上げ費用が増加したことによるものです。現在は部材の供給問題はすでに解決して、ミネベアの生産も正常化し、6月には黒字に戻りました。

LEDバックライトは、8月以降に販売が急増する見通しのため、蘇州新工場の早急な立ち上げを含め、更なる生産能力増強に努めていきます。

計測機器の売上高は、震災による自動車減産の影響があり、前四半期比で16.7%減の15億円となり、利益も減少しました。

今後は自動車生産の回復と共に販売が回復してくるものと思います。

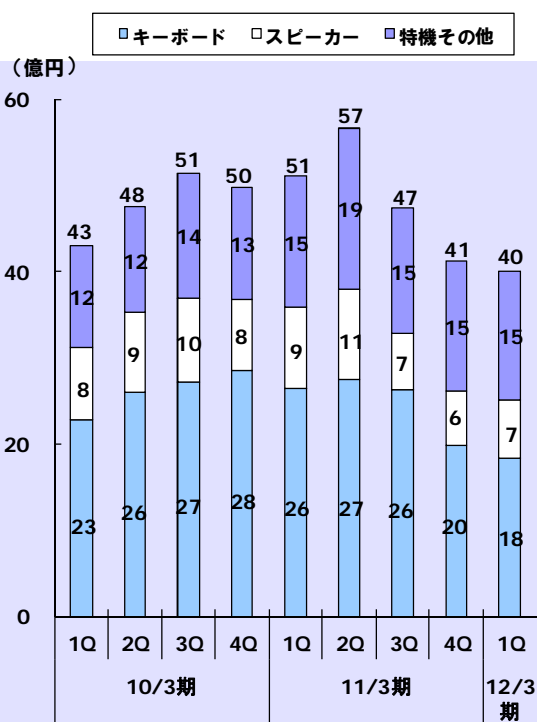
# その他事業

セグメント別

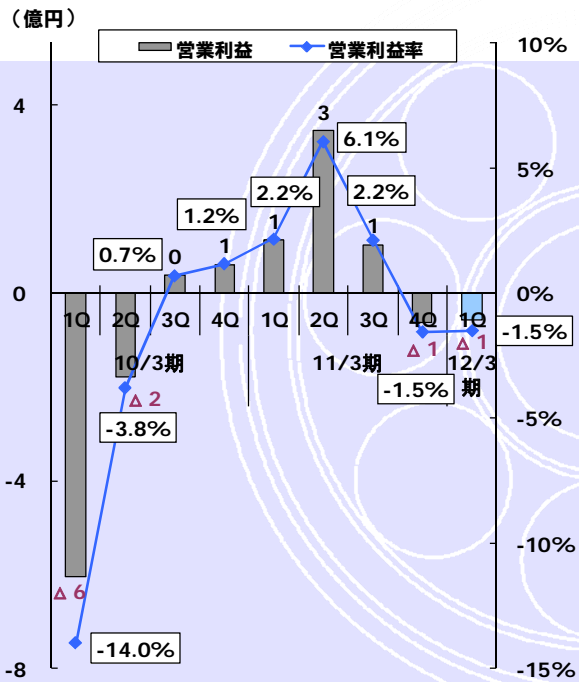
※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

四半期推移

売上高



営業利益



2011年7月29日

7

Minebea

第1四半期のその他事業セグメントは、前四半期比で売上が3.1%減の40億円、損益は1億円の赤字となりました。営業利益率は横ばいのマイナス1.5%となりました。

製品別では、キーボードの売上高は、前四半期比10.0%減の18億円で、若干の赤字となりました。

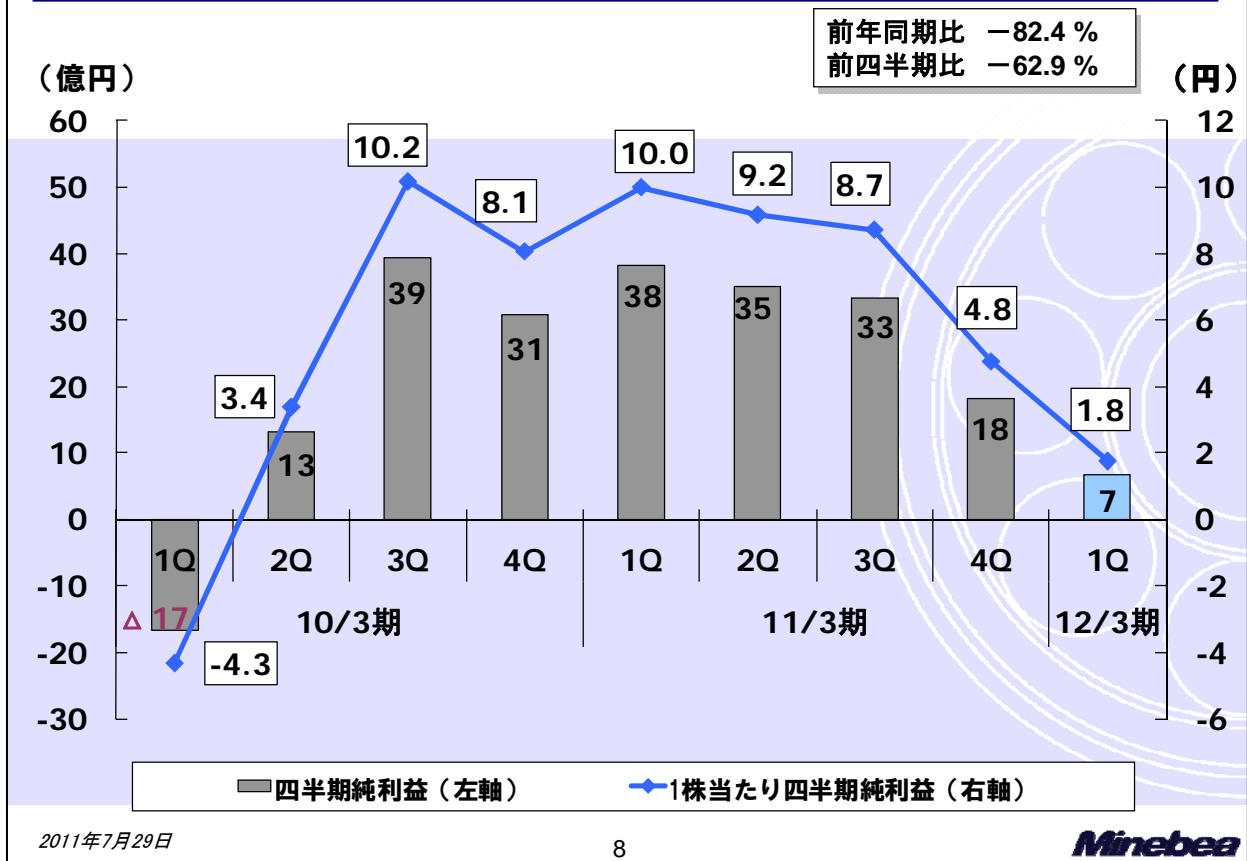
スピーカーの売上高は、前四半期比16.7%増加の7億円で、赤字が減少しました。

特機その他の売上高は、前四半期比で横ばいの15億円で、利益は増加しました。



# 純利益

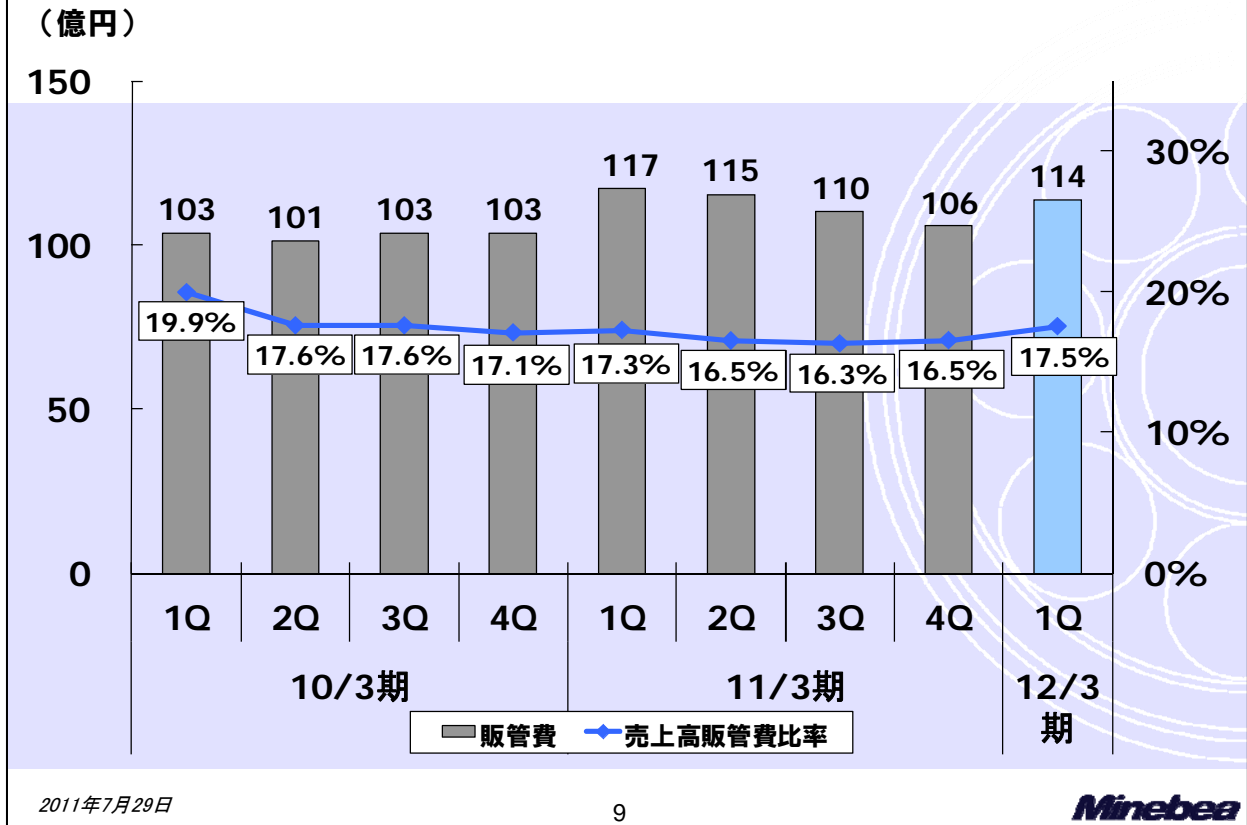
四半期推移



第1四半期の純利益は、営業利益の減少を受け、前年同期比で82.5%減の7億円となりました。  
一株当たり純利益は、1.8円となりました。

# 販管費

四半期推移



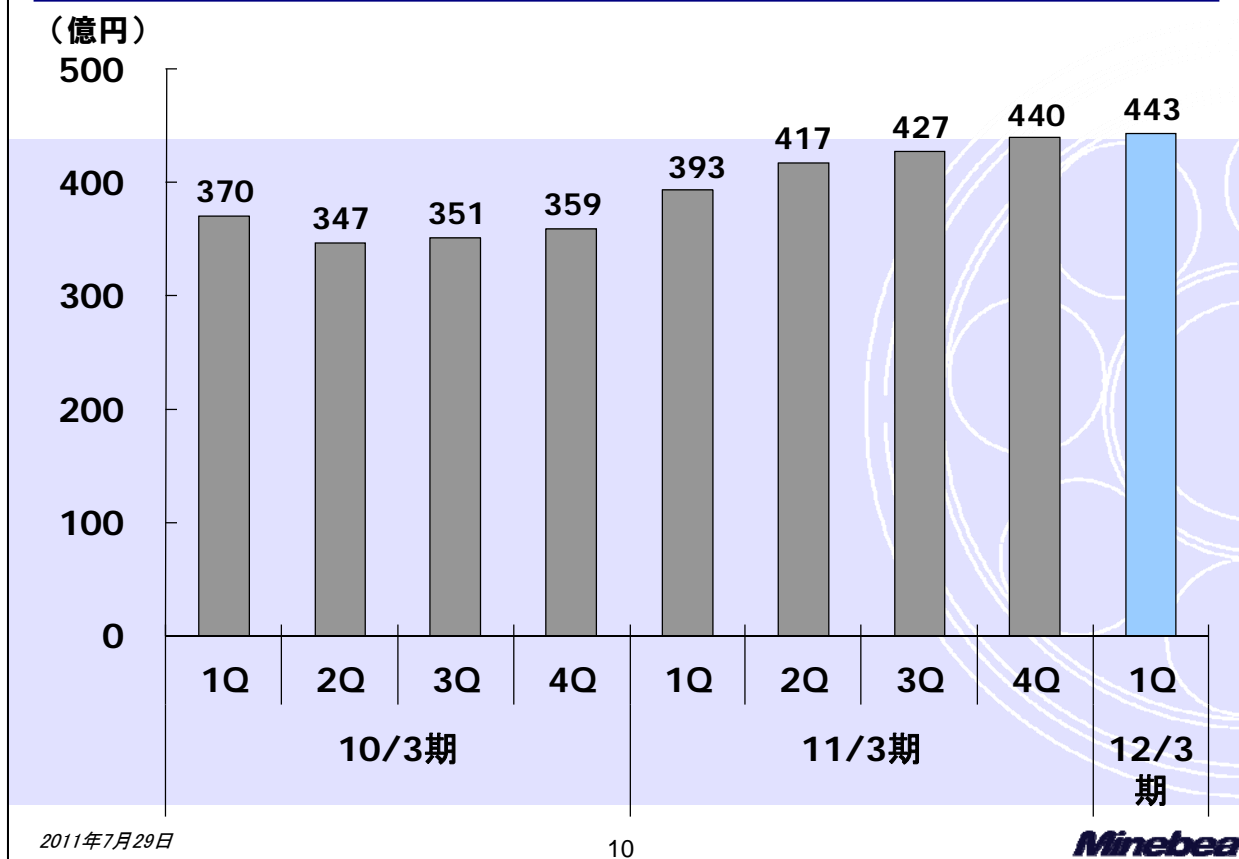
第1四半期の販管費は、前四半期比8億円増加の114億円となりました。売上高販管費比率は、前四半期比で1.0ポイント上昇の17.5%となりました。

人件費の高騰と新工場立ち上げに伴う経費の増加が主な要因です。

厳しい事業環境ではありますが、今後とも販管費の抑制に努めていきます。

# たな卸資産

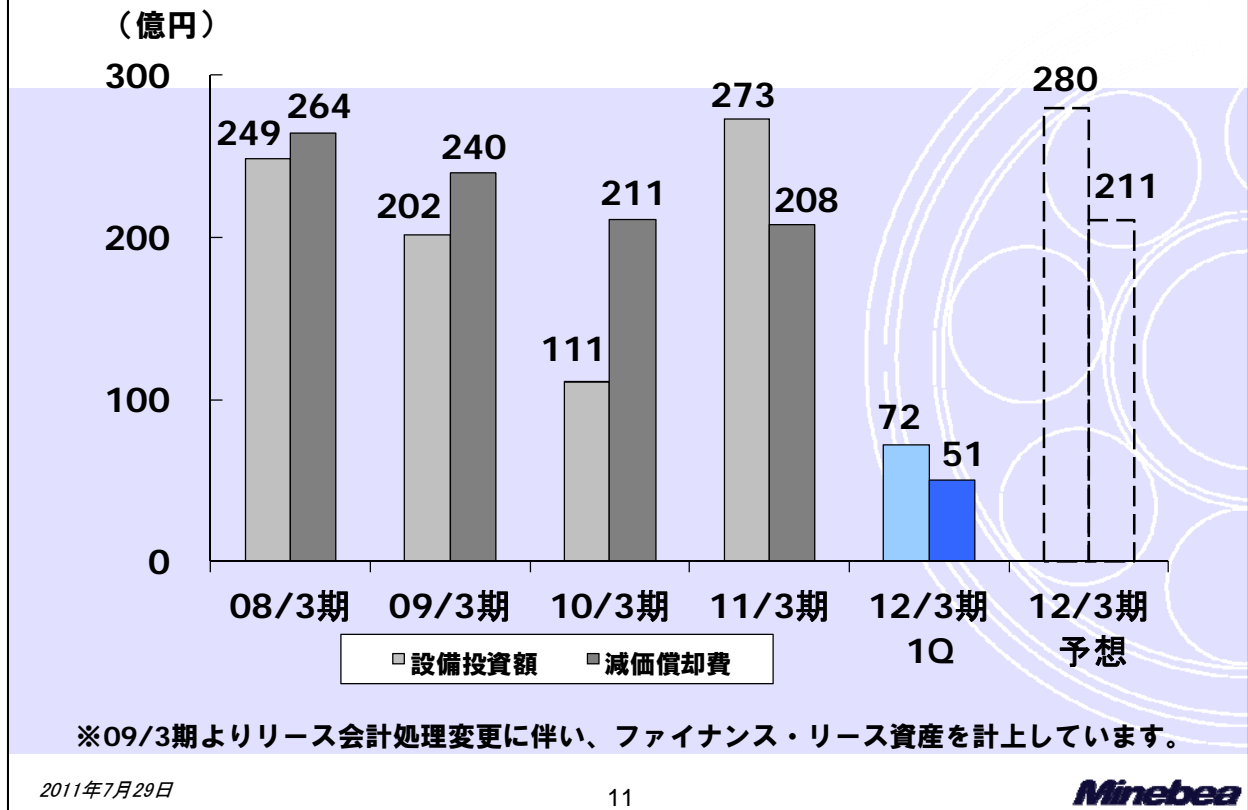
四半期推移



第1四半期末のたな卸資産は、前期末と比べ3億円増加しました。これは、ボールベアリング、ピボットアセンブリーの需要増加に備えた在庫積み増しとカンボジアと蘇州の新工場の稼働開始による仕掛品の増加などによるものです。

# 設備投資額・減価償却費

年推移



第1四半期の設備投資は72億円となりました。

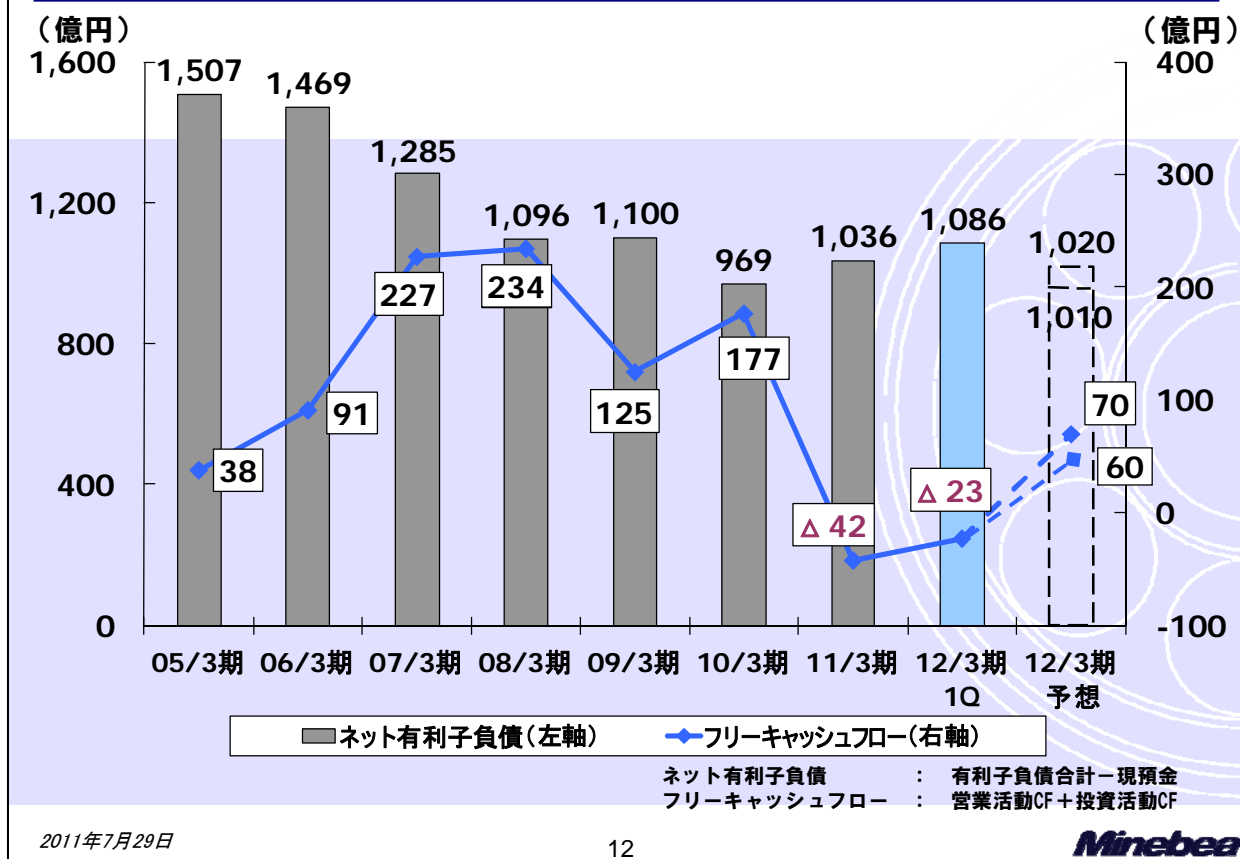
この4月には、LEDバックライトの蘇州新工場とモーターのカンボジア仮工場が稼働を開始しています。

今後も、ボールベアリング新工場の立ち上げ、カンボジア自社工場やタイでの多目的新工場の建設などを計画しています。

減価償却費は51億円でした。

# ネット有利子負債

年推移



2011年7月29日

12

Minebea

このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

第1四半期末におけるネット有利子負債は、1,086億円となり、前期末比50億円の増加となりました。これは利益減少の一方で、賞与や配当金の支払い、自社株買いの実施や各新工場立ち上げなどの資金需要が増加したことによるものです。

今後は利益の増加が見込まれますので、通期ではフリーキャッシュフローはプラスに転じると見込んでいます。

# 業績予想

## 期初の業績予想は変更致しません

| (百万円)        | 2011年3月期 |         | 2012年3月期予想 |         |         |         |         |
|--------------|----------|---------|------------|---------|---------|---------|---------|
|              | 通期       | 上半期     |            | 下半期     |         | 通期      |         |
|              |          | 上限      | 下限         | 上限      | 下限      | 上限      | 下限      |
| 売上高          | 269,139  | 135,000 | 123,000    | 150,000 | 137,000 | 285,000 | 260,000 |
| 営業利益         | 22,163   | 9,700   | 8,100      | 14,800  | 12,900  | 24,500  | 21,000  |
| 経常利益         | 20,364   | 8,700   | 7,100      | 13,800  | 11,900  | 22,500  | 19,000  |
| 純利益          | 12,465   | 4,400   | 3,300      | 8,600   | 7,700   | 13,000  | 11,000  |
| 一株当たり<br>純利益 | 32.61    | 11.60   | 8.70       | 22.74   | 20.36   | 34.34   | 29.06   |

| 為替レート | 11/3期   | 12/3期想定 |
|-------|---------|---------|
| US\$  | 86.04円  | 84.00円  |
| ユーロ   | 113.22円 | 111.00円 |
| タイバーツ | 2.75円   | 2.80円   |
| 人民元   | 12.78円  | 12.60円  |

2011年7月29日

13

Minebea

今期業績予想は、震災影響や為替動向、レアアースなどの原材料価格の先行きなど不透明な部分があるものの、各市場よりの需要回復の傾向に加えて、モーター販売価格の是正も進めていますので、この5月に発表しました予想を現段階では変更しません。

## トピックス: タブレットPC向けLEDバックライト参入決定

2011年 4月 LEDバックライト蘇州新工場稼働開始



2011年 8月 本格量産開始

2011年12月 タブレットPC向け量産開始予定

- ・薄く、明るいミネベア製LEDバックライトはタブレットPCにも適しており、大型受注が決定
- ・蘇州新工場は、将来を見越してすでに大型成形機を導入しており、大きな生産設備導入の必要がない
- ・タブレットPC向けは、蘇州新工場を中心に生産を行っていく

2011年7月29日

14

Minebea

この4月に稼働を開始したLEDバックライトの蘇州新工場ですが、この度、タブレットPC向けの大型受注が決定したため、12月からはタブレットPC向けの生産も開始することになりました。

ミネベア製のLEDバックライトは薄く、明るいため、スマートフォンやタブレットPC向けに適しており、この特徴が今回の受注決定につながりました。

蘇州新工場は、将来的なLEDバックライトの大型化に対応するため、大型の成形機をすでに導入しています。このため蘇州工場では、大きな新生産設備の導入がなくても、タブレットPCのような大きなサイズの生産を開始することができます。

タブレットPC向けは、蘇州新工場を中心とした生産体制とする計画です。

## トピックス:タイとカンボジアでの新工場建設状況

### タイ 多目的ボールベアリング新工場

外装工事をほぼ終了し、今秋から生産開始予定。



建屋面積 20,500㎡

### カンボジア自社工場

パイリング工事中。建屋完成後、2011年末生産開始予定。



建屋面積 28,000㎡を予定

2011年7月29日

15

Minebea

現在建設中の新工場ですが、タイのバンパインに建設中の多目的ボールベアリング工場は工事が順調に進んでおり、現在は外装工事をほぼ終わっています。

この夏までには工事を完了し、秋からピボットアッセンブリー向けボールベアリングの生産を開始する予定です。また、その後には新興市場向け低価格量産品や中径ボールベアリングの生産も計画しています。

カンボジアの自社工場につきましては、5月に起工式を終え、パイリングなどの基礎工事の段階に入りました。年内に建屋を完成し、年末には生産を開始する計画です。

小型モーターの組立拠点として、今後も積極的拡大を図っていきます。



## トピックス: 多目的新工場建設

建設予定地 : タイ ロップリ工場 (建設を中止したピボットアッセンブリー工場用地を再利用)

建屋面積 : 19,000㎡

建屋完成 : 2012年1月末予定 (通常工期より2カ月短縮)

生産製品 : 既存ロップリ工場から回転機器部品等生産ラインを移管

多目的新工場完成予想図



### 既存ロップリ工場移管スペースの活用

- ・スマートフォン市場の急拡大を受け、LEDバックライト生産能力を拡大し、2012年5月に生産開始予定
- ・2013年3月期中に全世界生産能力を月産3千5百万個に
- ・ロッドエンド生産能力も拡大予定

2011年7月29日

16

Minebea

先日、建設を中止したタイのピボットアッセンブリー工場用地に、新たに多目的工場を建設します。既に整地した用地を有効利用することで工期を2カ月短縮することができます。この工場には、既存ロップリ工場内の回転機器部品等の生産ラインを移管し、空いた既存スペースをLEDバックライト、ロッドエンドの生産能力拡大に活用します。

スマートフォン市場の急激な拡大に伴い、ミネベアのLEDバックライトの受注も急拡大しています。さらに新アイテムの大型受注が決定したため生産能力の拡大が急務になっています。新生産ラインの稼働開始は2012年5月を予定しており、来期中に全世界生産能力で月産3,500万個への拡大を目指します。

また、航空機市場の拡大が本格化しており、コストを抑えつつ需要を取り込むため、タイのロップリ工場でもロッドエンド生産能力も拡大することとしました。

今後とも伸びゆく市場に対しては積極的な設備投資を行っていきます。

# ミネベア株式会社

## 決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。